

古賀郷土史研究会通信

発行日

令和5年 11月15日

通信 (第18号)

小物又太郎は薦野氏か？

元寇の戦いで活躍した近隣の武将に薬王寺次郎、小物(薦野)又太郎、手光太郎、横大路太郎の四名の名前があります。薬王寺二郎氏については「古賀町誌 (P610)」に記載があり、薬王寺次郎は肥前の神崎荘で田一町八反、屋敷一、畠一反余を恩賞として賜っていますが、その他の人については不明です。また小物又太郎については薦野氏としていますが、薦野氏について「太宰管内志」には「名義詳かならず」としながらも小物又太郎資政をあげています。小物又太郎について明治政府が発行した「福岡地理全誌」に「東鏡」の薦野村編に「鎮西の住人、小物又太郎資政という人、見えたり。この人か」という記述があります。

「東鏡」の一節に「建暦三年(1213)五月云々鎮西の住人小物又太郎資政が和田義盛の陣に攻め入り、義秀(朝比奈三郎義秀)に打ち取らる。是は、故右大將家(頼朝)の御時、高麗を攻めらる大將軍なり」とあります。鎌倉時代中期の建暦三年に和田合戦が起きていますが、この戦いは北条義時と和田義盛の戦いで、この時、小物又太

郎資政は和田義盛の三男の朝比奈義秀に討ち取られています。(鎌倉殿の十三人より)



和田合戦(建暦3年)の時、小物又太郎資政は朝比奈義秀に討ち取られる。

元寇の戦いは、文永十一年(1274)と弘安四年(1281)の二回ありましたが、小物又太郎は元寇の時には既に死亡していますので、元寇の時には又太郎の孫か祖孫の頃にあたります。もし小物又太郎資政を薦野氏とすれば、これほどの人物なら、その後の記録に小物又太郎の子孫として何らかの記述が残ると思われませんが、何の記述もないようです。

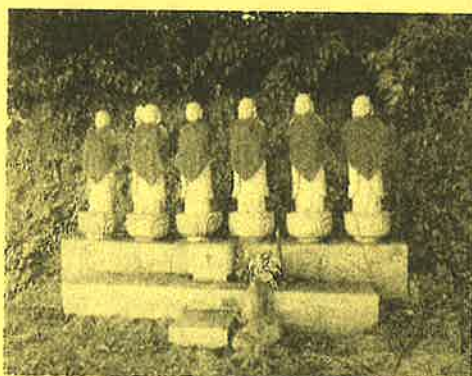
(飯島勇一郎)

医王寺の六地藏

筵内地区に曹洞宗の医王寺があります。入口の所に一本桜があり、春には桜の花が満開となつて人々の目を楽しませてくれます。医王寺の入口から本堂に向かう右側に六地藏が迎えてくれます。

六地藏とは六体が並ぶ地藏さんが、あの世へ旅立つ人々を六地藏さんのお加護によつて守ってもらうという信仰で衆生救済しようとするものです。

「六」は、六道輪廻の意味を表わしています。人の生まれ代りには生前の悪行が関連していて、それに応じて六道という六つの世界のいずれかに生まれ落ちるとされています。



医王寺の六地藏

人は死後に、地獄道、餓鬼道、畜生道、修羅道、人間道、天上道の六道を輪廻すると云われている事から、それぞれに衆生救済するために配置された六地藏とされています。

黒田藩主に献上された貝

寛政十二年(1800)に第十代藩主黒田斉清(なりきよ)公が六歳の時、福津市の津屋崎浦に來られた時に津屋崎浦の貝手頭(かいてかしら)佐治徳左衛門がお昼休みに津屋崎の貝を二十一種類献上しました。貝の中には今と呼び名が違うものもありますが、今も津屋崎の浜で全部見る事ができます。(潮の流れや風の向きによって、季節によって流れ着くのも違います!)寛政の頃に呼ばれていた名称ですが、現在の呼び名で九種類あるようです。()は現在の名。



ふみ貝
(提灯貝)



いたり貝
(きんちゃく貝)



まるばい
(つめた貝)



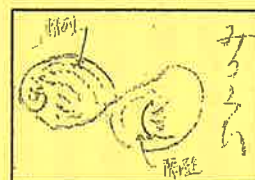
もんすり
(たまき貝)



さくら貝
(ねずみのて貝)



えぼし貝
(ひばり貝)



みるくい
(あわぶね貝)



あざ貝
(わしのは貝)



あさり
(おきあさり貝)

献上された貝のひとつ「スガイ」のフタは石灰質なので、フタを酢に入れると溶け出して廻りだすことから「酢貝」(すがい)と名付けられました。(幼い殿様はこの様な遊びをやっていたかも?)津屋崎の貝を遊んだことが、長じて博物学(蘭学)を好きになった遠因のひとつかと思われます。



佐治徳左衛門について、佐治家は屋号を紅粉屋(べにや)と称したが、系図によれば(津屋崎町史)、初代佐治与助は近江国(滋賀県)甲賀郡小

佐治村の生まれで、関ヶ原の戦いの時、黒田長政に仕え勲功があった。黒田家は筑前入国の後、300石で召し抱えようとしたが、与助は筑前へはやって來たが黒田家への仕官は断り、代わりに津屋崎で酒造の許可をいただくようにと願いだた。

実際、酒造を始めたのは慶安四年(1651)の佐治家二代目徳左衛門の頃からである。佐治家の酒造量は多く、運上銀三百目と宗像郡最大の造り酒造であった。「浦用心除米」など福岡藩の互助組織の運営にも力を発揮して、度々表彰を受けていて、「産子養育」といった福祉でも私財を提供し努力しています。

黒田斉清公は成人して本草学や蘭学を好み、文化・文政期に江戸で富山藩主前田利保と「緒轡会」(しゃべんかい)という博物学会を結成し武士や医者とも自由な交際をしました。その中の一人旗本・武蔵石寿の「目八譜」(もくはちふ)という彩色貝類図譜を作成しました。(東京国立博物館所蔵) (有吉敏高)

私達、会員は毎月第一土曜日、13..30より古賀の交流館103号で勉強会を開いています。

連絡先 古賀郷土史研究会

飯島勇一郎(会長)

☎(092)943-6850